

前期基本計画 令和 6年度 政策方針書

政 策：05 ひとにやさしく、誰もが快適かつ安全・安心に暮らせるまち

担当部長職・氏名	都市整備部長 長内 司善 上下水道部長 及川 竜悦
-----------------	------------------------------

1. 政策の実現状況を明らかにする

(1) この政策が前期基本計画期間で目指すまちの姿と、基本構想が目指す状態との関連

	【この政策が前期基本計画期間で目指すまちの姿】	市民の理解や共感を得ながら、豊かな自然と調和のとれた生活基盤の整備や維持を計画的に行うことにより、ひとにやさしく、快適で安全・安心に暮らすことができる住みやすいまちづくりを目指します。
	【基本構想が目指す状態(やさしさに包まれた滝沢)との関連】	「ひとにやさしく、快適で安全・安心に暮らすことができる住みやすいまち」の実現は、市民生活の基盤である住みやすい住環境を維持することを指しており、そのために市は、地域が抱える課題に対して「かかわり」を持ち後押しします。また協働除雪や互助輸送、自然環境保全による水資源保護等の市民が主体となり得る活動を支援することにより、持続可能な地域づくりへの意識の高まり、また、かかわりによる市民主体の活動環境づくりを醸成し、地域づくりの基盤となるセーフティネットの堅持に繋がります。

(2) 政策に関連する指標の状況

No	政策関連指標	基準値	上：戦略目標見込値／下：達成値					目標値	進捗状況
		令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和 9年度	進捗率(%)	
1	指標1 滝沢市は住みやすい市だと感じている人の割合 単位 %	68.3	69	70	71	72	72	-	
			-	-	-	-	-	0.0	
	単位								
	単位								

(3) 政策を構成する施策及び関連する指標の状況

No	施策名	基準値	上：戦略目標見込値／下：達成値					目標値	進捗状況
	施策関連指標	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和 9年度	進捗率(%)	
1	05010100 活力ある都市づくりの推進 滝沢市は住みやすい市だと感じている人の割合 単位 %	68.3	69	70	71	72	72	-	
			-	-	-	-	-	0.0	
2	05010200 計画的な道路整備と維持管理の推進 交通事故発生件数 単位 件以下	41	41	41	41	41	41	-	
			-	-	-	-	-	0.0	
3	05010300 河川及び公園の計画的な整備・改修と維持管理の推進 災害に強いまちだと感じている人の割合 単位 %	46.4	47	47.6	48.2	48.8	48.8	-	
			-	-	-	-	-	0.0	
4	05010400 上下水道事業の健全かつ持続可能な経営と理解促進のための情報発信 経営資本営業利益率（水道） 単位 %	0.7	0.7	0.7	0.7	0.5	0.5	-	
			-	-	-	-	-	0.0	
5	05010400 上下水道事業の健全かつ持続可能な経営と理解促進のための情報発信 経費回収率（下水道） 単位 %	99.7	100	100	100	100	100	-	
			-	-	-	-	-	0.0	
6	05010500 安心・安全かつ強靱な上下水道施設の整備と自然環境保全及び水循環の推進 滝沢市の水道水がおいしいと感じている人の割合 単位 %	73.3	79	80	81	82	82	-	
			-	-	-	-	-	0.0	

前期基本計画 令和 6年度 政策方針書

政 策：05 ひとにやさしく、誰もが快適かつ安全・安心に暮らせるまち

担当部長職・氏名	都市整備部長 長内 司善
	上下水道部長 及川 竜悦

2. 政策の実現に向けた現状を認識する

(1) 政策の進捗状況分析

中心拠点商業地区の整備については、開発事業者が市のコンセプトに基づく開発を進めており、快適かつ安全・安心に暮らせるまちづくりに向けた整備が図られております。公共交通対策については、公共交通小需要地域や運転手不足等の対策など持続可能な公共交通のありかたについて、市民や盛岡広域市町、関係機関とともに検討してまいります。

市民主体による地域づくりを支え、誰もが快適かつ安全・安心に暮らせるまち実現のためには、上下水道は欠かすことのできない重要なインフラであり、安定的な事業の継続が求められています。上下水道事業の現状の課題は「更新需要の増大」「料金・使用料収入の減少」「技術の継承」であり、この課題を解決し安定的事業経営を継続するため、令和4年に「第3次水道事業ビジョン」を策定し、令和5年に「下水道経営戦略」の見直しを行いました。今後は水道施設更新計画の策定、下水道事業計画の変更により、計画的な事業運営を進めます。

(2) 政策に影響する社会環境変化

- ・補助金・交付金の減少、少子高齢化の進展などにより、市民と行政が協働して事業を推進する体制づくりが必要です。
- ・世界情勢の不安定や世界的な資源不足、円安などから土木・建設業界も環境の変化や大きな負担が強いられております。
- また、人手不足や高齢化に伴うオペレーターの確保について注視する必要があります。
- ・全国各地で地震や台風、局地的な大雨など自然災害により大きな被害が発生しており、災害時における応急対応及びライフラインの確保に対するニーズがより高まっています。
- ・人口減少による有収水量の減少により、水道料金及び下水道使用料収入が減少傾向にあります。
- ・水道行政が厚生労働省から国土交通省へ所管替えとなり、基盤強化が図られています。

3. 政策の実現に向けた取組を決定する

(1) 政策が、令和6年度から令和9年度までの4年間で取り組む事（前期基本計画期間内の取組）

- ・中心拠点形成について、市のコンセプトのもと開発事業者と協議を進め、市民の利便性の向上と雇用の創出に努めます。
- ・空き家問題について、「滝沢市空家等対策計画」に基づき各施策を展開し、良好な住環境の維持を図ります。
- ・市民や広域市町、関係機関と連携して「盛岡都市圏地域公共交通計画」を策定し、持続可能な地域公共交通に向けて利用促進を図ります。
- ・市民の安全・安心、防災・減災を図るために道路整備と修繕、河川の改修事業を継続的に推進してまいります。
- ・協働除雪など市民に協働することの理解を深めるとともに、必要性や効果について情報を発信します。
- ・都市基盤整備に関連する研修会等への参加を積極的に進め、人材の育成や技術の継承を図ります。
- ・上下水道施設の中長期の改築・更新計画を策定します。
- ・料金、使用料収入の減少と更新需要の増加を見込んで、適正な水道料金、下水道使用料継続のため、定期的な検証と、必要に応じて見直しを行います。
- ・上下水道事業への市民の理解促進と参画意識醸成のため広聴広報の充実を図り、安定的事業運営及び大規模災害等緊急時の対策を推進します。
- ・技術継承のための人材育成を行います。

(2) この政策が令和6年度に特に力を入れて取り組む事（重点課題）

- ・中心拠点の形成に向けて、関係する機関との連携調整及び関連する市道向新田線の整備を推進します。
- ・良好な住環境の形成に向けて、滝沢総合公園及び一般公園の長寿命化計画に基づき改修を実施します。また空家等対策計画に基づく施策を展開します。
- ・準用河川仁沢瀬川改修事業の推進や国直轄事業、県事業の砂防施設整備の早期完了を目指し連携して事業を推進します。
- ・市民と除雪業者、行政が連携し、持続可能な除雪体制の構築を推進します。
- ・災害対策のための管路更新と、緊急時の応急対応に必要な広報の充実を図ります。
- ・水道施設更新計画策定に着手し、下水道経営戦略に合わせた事業計画の変更を行います。
- ・組織の見直しによる人材の活用、技術の継承を進めます。

